平和への思い新たに

ろうそくに原爆の火を灯す福井大生ら＝22日

原爆の火 ろうそくに灯す 福井

広島原爆の残り火をろうそくにともして、平和への思いを新たにするイベントが22日、福井市文京3の福井大で開かれた。冬至に合わせて、韓国5会場と日本17会場で開かれたイベントの一環。福井大では、雨が降る中、学生たちは「原爆の火」の火種から採った炎でろうそく一つ一つに明かりをともし、平和の大切さをかみしめていた。

【幸長由子】

「原爆の火」は、福岡県八女市星野村出身の故山本達雄さんが、原爆で亡くなった叔父の形見として、叔父宅の地下壕でくすぶっていた炎を持ち帰ったもの。大阪市の市民団体「キャンドルナイトワンピース実行委員会」が、ろうそくに原爆の火をともすイベントを続けてきた。今年は、在韓被爆者が多く住む韓国南部の町、陜川（ハプチョン）でともし、その火を韓国と日本各地に分けてともそうと企画した。

福井大でのイベントは、同大OBの女性が学生に紹介して実現。学内のライトアップイベントの一環で行われた。図書館前の広場にろうそく約100個が並べられ、午後5時20分ごろから次々に点火した。あいにくの雨で長くは続かなかったが、参加した同大工学部3年、荒井宏典さん(21)は「準備で原爆の火の由来などを聞き、恐ろしさを実感した。他の学生にも平和について考えてもらいたい」と話していた。